

戦後における全国レクリエーション大会に関する研究

○加藤秀治[日本大学大学院] 澤村博[日本大学]

キーワード：GHQ、レクリエーション活動、全国レクリエーション大会、
民主化、民主主義

戦後新たに再出発した日本厚生運動連合は、1947年10月27日から29日に金沢市において第1回全国レクリエーション大会を開催した。

本研究では第1回から第5回までの大会はGHQの方針が反映され武道等が禁止された。そしてサンフランシスコ講和条約締結後、第6回以降ではレクリエーションへの認識や取組みも変化し、祭り・郷土芸能などの日本独自の文化も取り入れるなど協会中心となり日本の独自性を発揮しながら開催された。

本研究では占領下と条約締結後の全国レクリエーション大会の取組みや協会の活動などを考察し、両者の比較、検討を加え、活動実態を明らかにする。

占領下のレクリエーション活動について

○鍵水 万衣子[日本大学] △澤村 博[日本大学]

キーワード：GHQ レクリエーション活動 日本レクリエーション協会 民主化

敗戦後の日本は、GHQの指導の下、軍国主義から民主主義へと移り変わっていった。戦前に団結力の強化や体力増強を目指すなど、軍事目的に使われていた厚生運動。その厚生運動を行っていた日本厚生協会は、管轄を文部省と厚生省の両省に改め、1946年9月に日本厚生運動連合となった。その後、翌年10月に日本レクリエーション協議会、1948年3月には財団法人日本レクリエーション協会となり、政府から独立する形となった。

敗戦後たった2年の1947年には、国体と時を同じくしたとは言え、早くも第一回、全国レクリエーション大会が開催され、そこで全国的な組織の結成計画が打ち出されている。GHQの積極的な協力があつたとされているが、何故そこまで日本のレクリエーションを広めることに尽力したのか。また、国民の間にはほとんど広まっていなかったレクリエーションというものが、何故これほどのスピードで受け入れられたのか。その点について、歴史的に検証していき、実態を明らかにすることを試みる。